

米の需給見通しについて

令和8年7月
農林水産省
農 産 局

目 次

【米の需給見通しについて】

○ 令和8年6月末民間在庫量のポイント	2
○ 相対取引価格と民間在庫量の推移	3
○ 相対取引価格の推移（令和3年産～令和7年産）	4
○ 精米事業者のとう精数量実績調査結果（とう精数量）について	5
○ 米の小売価格・販売数量の推移	6
○ S B S米の輸入状況	7
○ 民間貿易による輸入状況（枠外輸入）	8
○ インバウンド需要の増加	9
○ 水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））	10
○ 基本指針（案）のポイント① <最近の需要動向と令和8／9年の需要量（見通し）>	11
○ 基本指針（案）のポイント② <今後の見通し等>	12
○ 令和7／8年の主食用米等の需要量の背景	13
○ 令和9年産以降の米の需給見通しの検討方向（案）	14
○ 政府備蓄米の在庫状況について	15
○ 政府備蓄米の売渡しに係る買戻し及び買入れについて	16
○ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の令和8年度申請状況について	17

【参考資料】

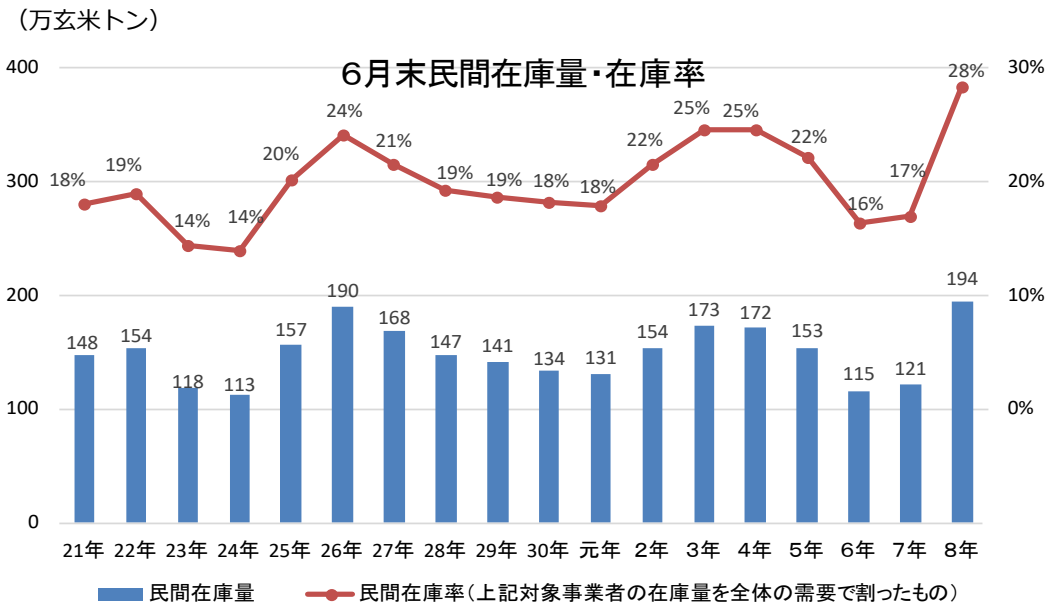
○ 令和7年産主食用米の収穫量	19
○ 水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））①～④	20
○ 出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和8年6月末現在）	24
○ 令和7年産米の集荷業者の集荷・販売状況	25
○ 米の販売数量等の推移	26
○ 精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について	27
○ 各年産の生産量・需要量（推計値）等	28
○ 令和8年産備蓄米の政府買入入札の結果（令和8年6月10日現在）	29
○ 令和7年産米の相対取引価格（令和8年6月の年産平均価格）	30
○ スーパーでの販売数量・価格の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）	31

令和8年6月末民間在庫量のポイント

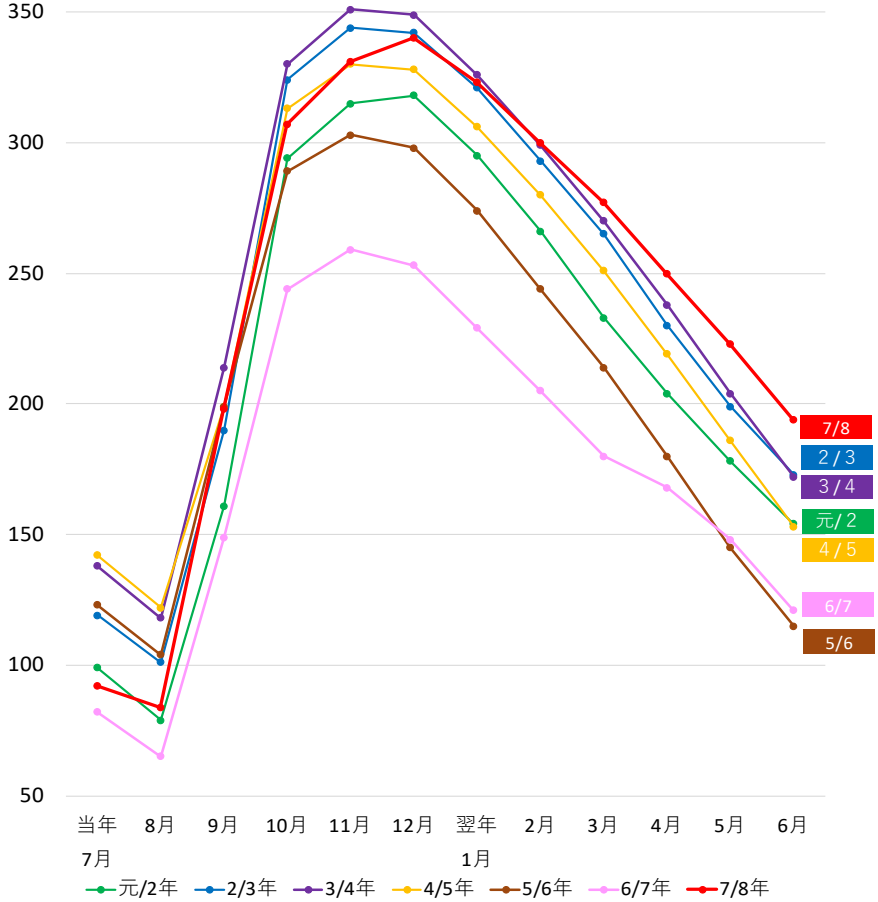
- 令和8年6月末の民間在庫量（玄米仕入量が500トン以上の集荷業者等、4,000トン以上の卸売業者等のうるち米の在庫量）は対前年同月+72万玄米トンの194万玄米トンと、最も高い在庫水準。
- 段階別にみると、出荷段階は142万玄米トン、販売段階は51万玄米トンであり、販売段階の在庫量は例年の同時期（30～40万玄米トン程度）に比べ高い水準で推移。

○ 出荷・販売段階別の民間在庫量（うるち米）
(万玄米トン)

	出荷段階	販売段階	合計
7年6月末	84	37	121
前年差	±0	+6	+6
8年6月末	142	51	194
前年差	+58	+14	+72



○ 民間在庫量の月別の推移（うるち米）
(万玄米トン)

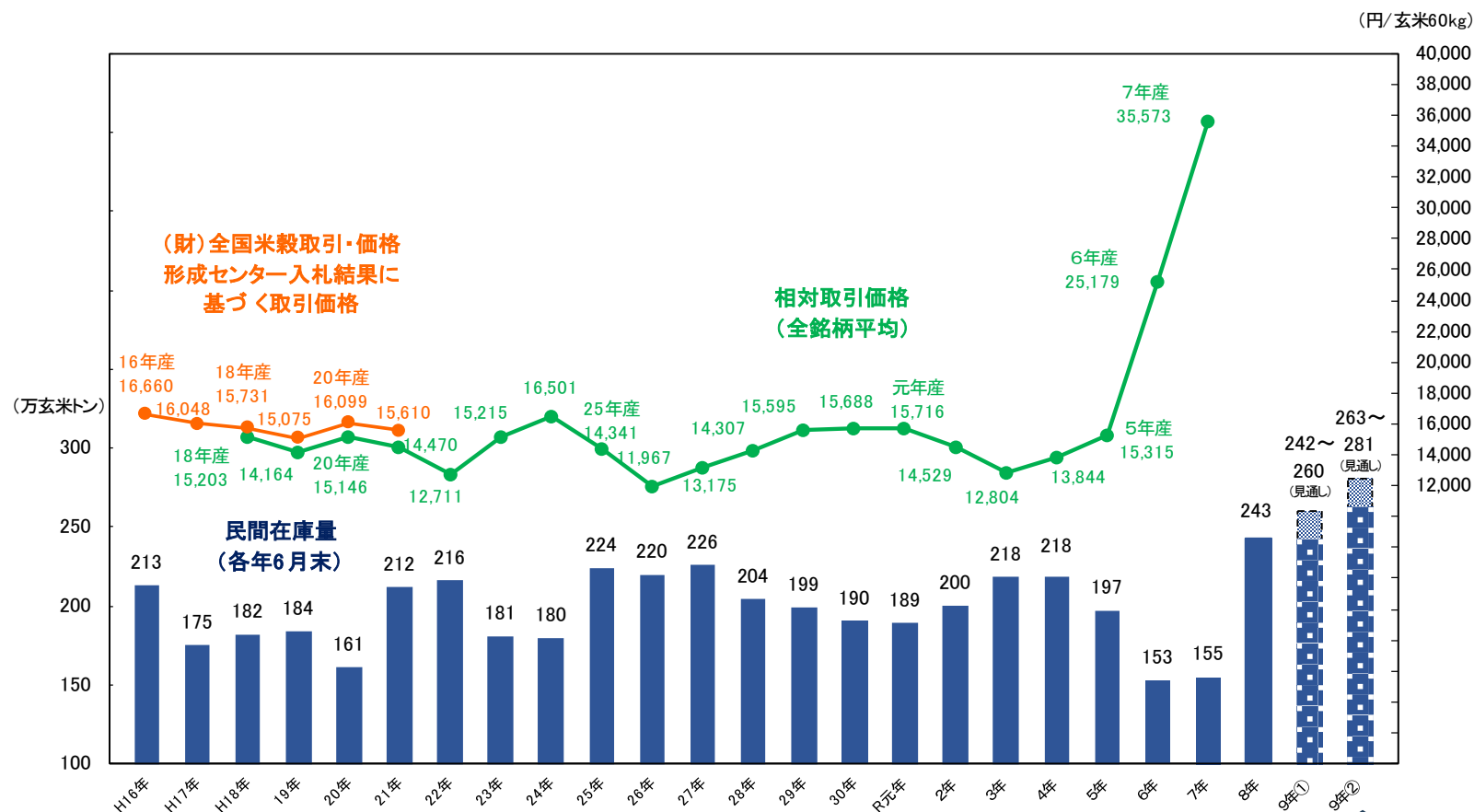


※22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。
※出荷段階は玄米仕入数量が500トン以上の集荷業者等、販売段階は玄米仕入数量が4,000トン以上の卸売業者等を対象。

相対取引価格と民間在庫量の推移

- 令和8年6月末の民間在庫量は「243万玄米トン」。令和9年6月末の民間在庫量は「242～260万玄米トン」（令和8年6月末時点の作付意向調査を踏まえた見通しは「263～281万玄米トン」）と見込んでおり、仮に在庫量見通しの上位値に達した場合、6月末の民間在庫量調査を開始した平成16年以降で最大の水準。

〔（参考）令和7年6月末の民間在庫量：155万玄米トン、相対取引価格（令和6年産）：25,179円/玄米60kg
平成27年6月末の民間在庫量：226万玄米トン、相対取引価格（平成26年産）：11,967円/玄米60kg〕

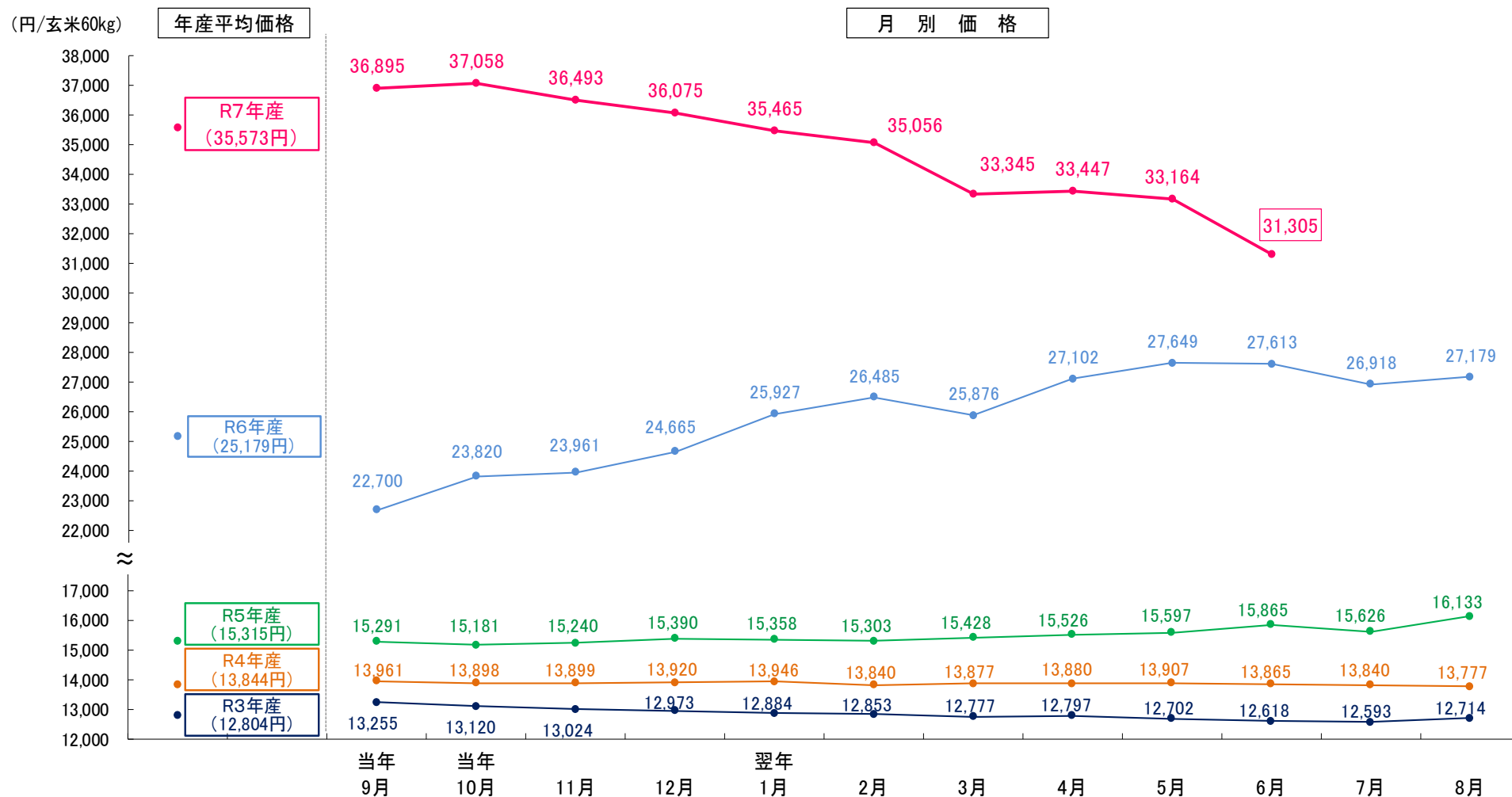


注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（令和6年産及び7年産は出回りから8年6月までの速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

作付意向調査
(令和8年6月末時点)を
踏まえた見通し

相対取引価格の推移（令和3年産～令和7年産）

- 令和7年産米の令和8年6月の相対取引価格は、全銘柄平均で31,305円/玄米60kgとなり、対前年同月+3,692円（+13%）、対前月▲1,859円（▲6%）となったところ。また、取引数量は、9.0万トン（対前年同月比+160%）となった。
- 年産平均価格は35,573円/玄米60kgとなり、対前年+10,394円（+41%）となった。



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（7年産は出回りから令和8年6月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

精米事業者のとう精数量実績調査結果（とう精数量）について

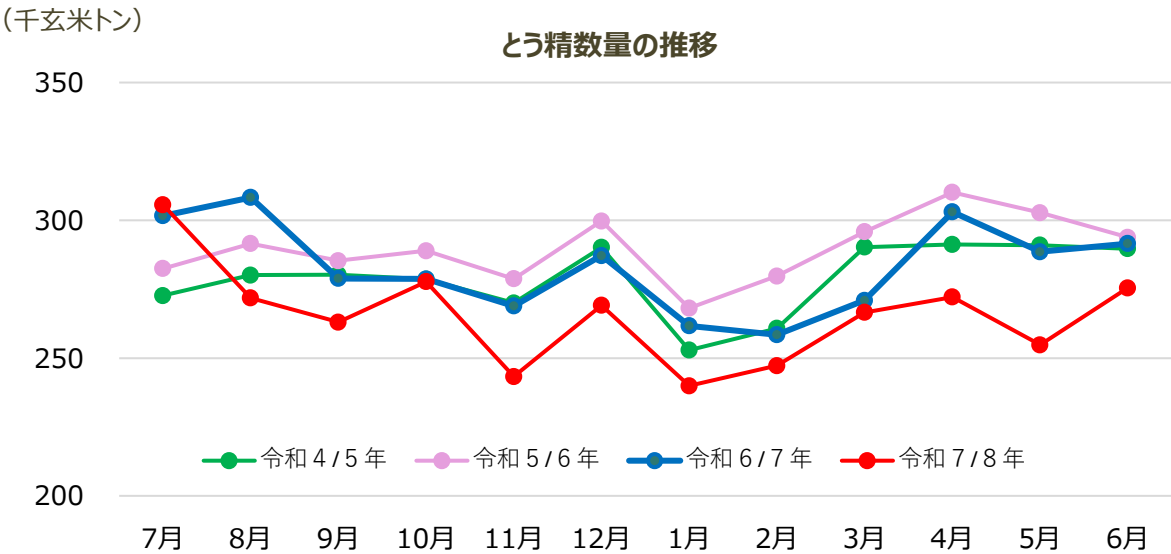
○ 精米事業者による令和7年7月～令和8年6月のとう精数量は、前年（令和6/7年）の同期と比べ、減少（対前年差▲21.1万玄米トン、対前年比93.8%）。

○ とう精数量の推移（速報）

(千玄米トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	年計	7～6月計	対前年同期差	対前年同期比	対3力年平均同期差	対3力年平均同期比
令和4/5年	272.7	280.1	280.3	278.6	270.0	290.1	252.9	260.8	290.3	291.2	291.0	289.7	3,347.7	3,347.7	—	—	—	—
令和5/6年	282.5	291.5	285.3	288.9	278.8	299.8	268.1	279.7	295.9	310.1	302.8	293.8	3,477.3	3,477.3	+129.6	103.9%	—	—
令和6/7年 (備蓄米除く)	301.7 (301.7)	308.3 (308.3)	278.9 (278.9)	278.7 (278.7)	268.9 (268.9)	287.2 (287.2)	261.7 (261.7)	258.5 (258.5)	271.0 (271.0)	303.1 (271.8)	288.6 (235.7)	291.5 (202.4)	3,398.0 (3,224.7)	3,398.0 (3,224.7)	▲79.3 (▲252.6)	97.7% (92.7%)	—	—
3力年平均	285.6	293.3	281.5	282.1	272.6	292.4	260.9	266.3	285.7	301.5	294.1	291.7	3,407.6	3,407.6	—	—	—	—
令和7/8年 (備蓄米除く)	305.6 (206.9)	271.8 (211.0)	263.0 (233.1)	277.7 (256.1)	243.3 (230.8)	269.1 (261.7)	240.0 (233.8)	247.3 (243.3)	266.6 (264.0)	272.1 (271.2)	254.8 (254.3)	275.5 (275.2)	3,186.8 (2,941.2)	3,186.8 (2,941.2)	▲211.1 (▲283.5)	93.8% (91.2%)	▲220.8 (—)	93.5% (—)

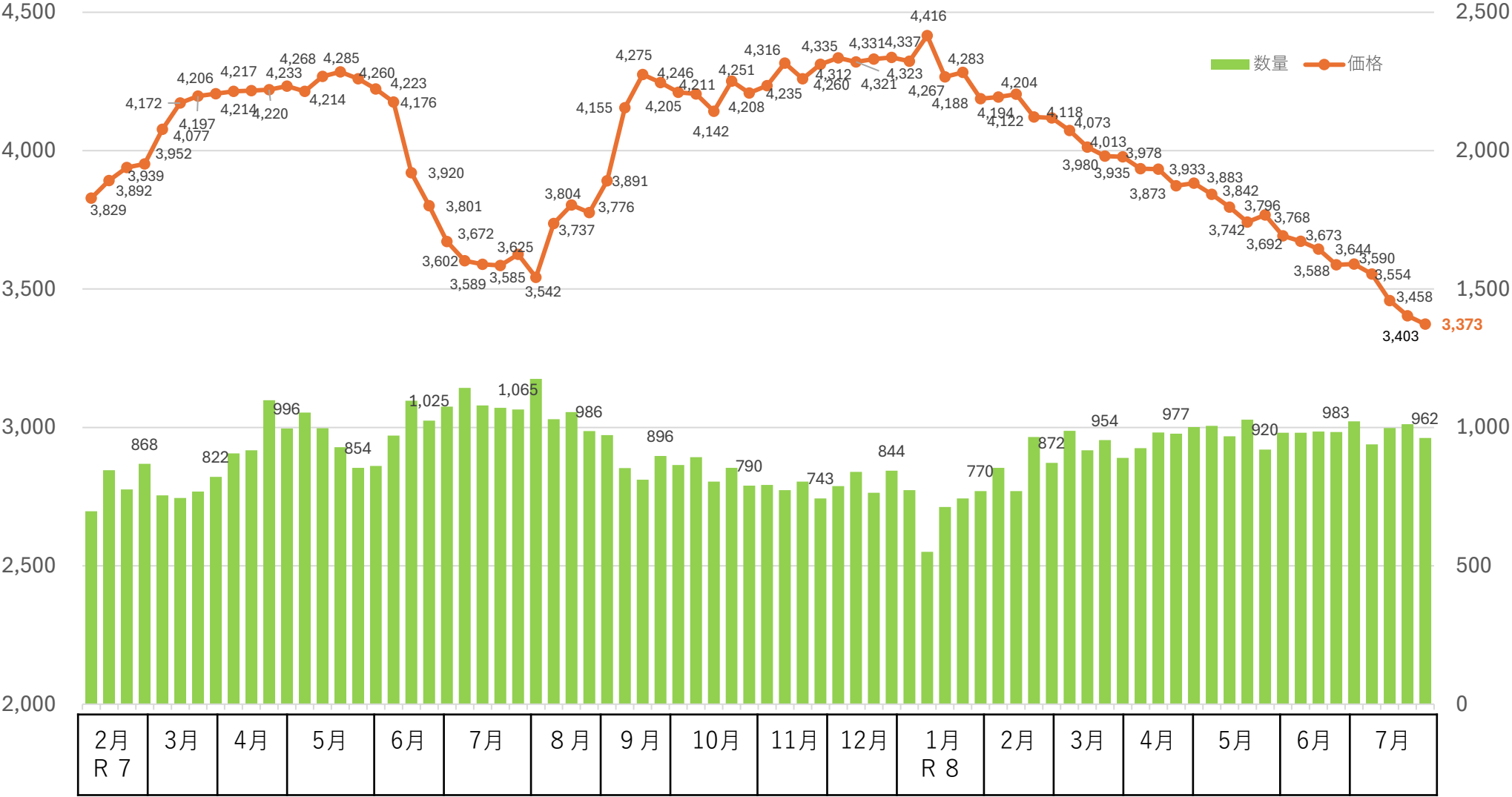
注1：とう精数量は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。
注2：とう精数量は、玄米投入量である。



米の小売価格・販売数量の推移

(円/5kg、税込)

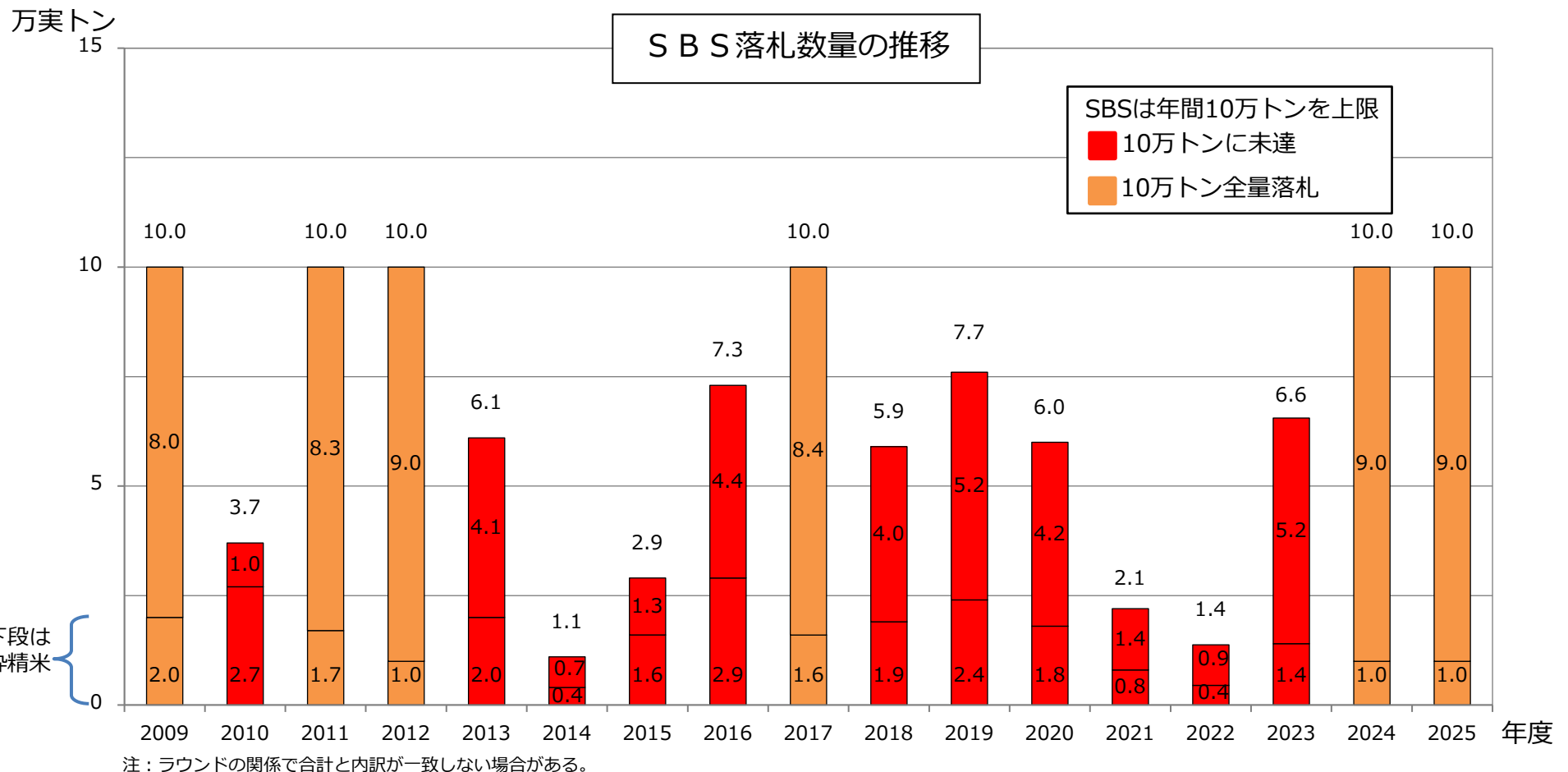
(トン)



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータ（全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータ）に基づき農林水産省が作成。

S B S 米の輸入状況

- S B S 米は、年間10万トンを上限に輸入され、主に主食用に流通。毎年度、国産米を政府備蓄用に10万トン以上買い入れることにより、国産米の需給に影響を与えないよう措置。
- 国産米の需給が緩和すると、S B S 米の需要が弱まり、国産米の需給が引き締まると、S B S 米の需要が強まる傾向。



民間貿易による輸入状況（枠外輸入）

- 国家貿易以外のコメの輸入（枠外輸入）には、高水準の枠外関税（341円/kg）を設定。貿易統計によると、毎年、インド産やタイ産の長粒種など、600～800トン程度が輸入。
- 2024～2025年度は、国内の米価の高止まりを受けて、S B S輸入の年間上限10万トン全量が落札され、S B S輸入で落札できなかった事業者等が、枠外関税を支払って主食用米を輸入する動きが拡大。
- **2025年度の累計は105,778トン。**このうち、**米国産米の輸入が約8割。**2025年度は2024年度と比べて、**全体は約35倍、米国は約200倍に増加。****2026年度5月末時点の輸入数量は6,127トン。**

＜会計年度（4月～翌3月）ごとの輸入数量＞ （単位：実ト）

2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
623トン (173トン)	805トン (176トン)	871トン (201トン)	773トン (135トン)	730トン (59トン)	3,011トン (416トン)	105,778トン (82,804トン)	6,127トン (3,755トン) ※5月末時点

＜月別(7月～翌6月)の輸入数量＞ （単位：実ト）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
2024/2025 (令和6/7)	124 (0)	64 (21)	41 (0)	93 (19)	202 (19)	118 (21)	414 (0)	489 (39)	1,280 (240)	6,838 (5,499)	10,607 (7,894)	20,979 (15,945)	41,249 (29,697)
2025/2026 (令和7/8)	26,397 (22,983)	15,168 (12,951)	6,534 (5,442)	1,475 (215)	2,787 (1,996)	3,866 (2,415)	4,918 (3,443)	4,160 (3,180)	2,049 (841)	3,373 (2,279)	2,754 (1,476)	－	<7月～翌5月> 73,481 (57,221)

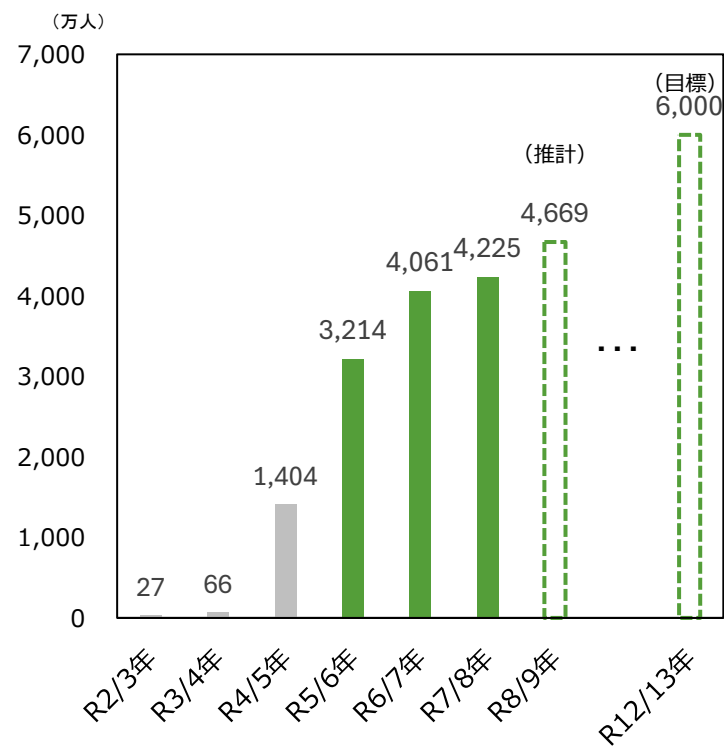
※ 括弧内は米国からの輸入数量

資料：財務省「貿易統計」
注：枠外関税を支払って、民間貿易により輸入されたコメ（もみ、玄米、精米、碎米の合計）の数量

インバウンド需要の増加

- 推計精度の向上のため、令和7年度に訪日客へのアンケート等により訪日時の喫食の状況を調査。
- 寿司などの外食に加え、おにぎり、巻きずし等のテイクアウト利用も多く、1人1泊あたりのごはん消費量は14か国の平均で570g（精米換算251g）と推定。（注）従来の推計では354g（精米換算156g）と仮定して推計していた。
- 今後の需給見通しは、本データに基づき、インバウンド需要の推計値を更新。

訪日外客数の推移



出典：日本政府観光局「訪日外客統計」

注1：観光目的と観光目的以外（ビジネス等）の総数
注2：政府目標（2030年：6,000万人）に向かって直線的に増加すると仮定して推計
注3：算出にあたって利用した平均泊数のデータは観光庁「インバウンド消費動向調査」であり、暦年の数値で公表されているため、R4/5年はR4年、R5/6年はR5年、R6/7年はR6年の数値などと需給見通しの算定期間にあてはめている。観光目的以外の訪日者（全体数の約1割）については、観光目的の者に比べて消費量が少ない傾向にあることから、今回調査した国籍別の消費量ではなく、日本国民と同等の消費量（過去5年の需要実績の最大値：年間50.7精米kgベース）により算出。令和8年5月及び6月の目的別の訪日外客数は未公表のため、同年4月の目的別割合を各月において各国の訪日外客数の総数に乘ずることで推計。玄米換算は歩留りを一律90.6%で計算

訪日客の国籍別の1人1泊あたりごはん消費量（g）

アメリカ	イギリス	ドイツ	フランス	オーストラリア	中国	台湾	韓国	香港	フィリピン	タイ	ベトナム	シンガポール	インドネシア	平均
565	567	474	577	497	546	556	499	468	695	629	718	474	714	570



インバウンド需要の推計（見直し後）

	訪日外客数 (注1)	訪日外国人による米の需要量 (注3) (精米ベース)	訪日外国人による米の需要量 (注3) (玄米換算)	【参考】見直し前 訪日外国人による米の需要量 (精米ベース)
R2/3年	27万人	0.1万トン	0.1万トン	0.0万トン
R3/4年	66万人	0.2万トン	0.3万トン	0.1万トン
R4/5年	1,404万人	2.4万トン	2.7万トン	1.9万トン
R5/6年	3,214万人	5.9万トン	6.5万トン	5.1万トン
R6/7年	4,061万人	7.0万トン	7.8万トン	5.7万トン
R7/8年	4,225万人	8.2万トン	9.1万トン	6.1万トン
R8/9年	4,669万人 (注2)	9.1万トン	10.1万トン	6.6万トン
R12/13年	6,000万人 (注2)	11.7万トン	12.9万トン	8.4万トン

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
 - 令和8年6月末時点の主食用米の作付意向は136.0万ha（対前年0.7万ha減）。4月末時点から0.3万ha減。
- 注1：主食用米の生産量は、1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）を用いて計算すると、732万玄米トンに相当。
- 2：6月末時点の作付意向等を踏まえ、令和8年8月20日（木曜日）まで、生産者から地域農業再生協議会に提出する営農計画書等の変更が可能であることなどから、本調査結果は今後変動が見込まれる。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

年 産	主食用米	酒造好適米	備蓄米	戦略作物								合計
				加工用米	新規需要米	新市場開拓用米 （輸出用米等）	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 （稲発酵粗飼料用稲）	麦	大豆	
R4年産	125.1	—	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R5年産	124.2	—	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R6年産	125.9	—	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R7年産	136.7	—	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R8年産 （6月末時点）	136.0	1.8	3.9	4.5	8.5	1.0	0.6	2.6	4.3	8.6	6.8	28.4
対前年差	-0.7	—	+3.9	+0.1	-2.3	+0.1	+0.2	-2.0	-0.6	-0.9	-0.7	-3.8
4月末時点との差	-0.3	—	+1.2	+0.1	-0.7	+0.0	+0.2	-0.7	-0.2	-0.2	-0.2	-1.0

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産以前の実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。

4：備蓄米の8年産作付意向は、政府買入入札の落札数量（21万トン）を1.70mmふるい目幅の直近5か年中3か年平均の全国単収（538kg/10a）で除して算出。
このため、本資料2～5頁の主食用米及び備蓄米の全都道府県の積上げは、1頁の数値と一致しない。なお、備蓄米の6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。7年産は取組計画の届出面積。
なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

6：麦及び大豆の7年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

7：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

基本指針（案）のポイント① <最近の需要動向と令和8／9年の需要量（見通し）>

<最近の需要動向>

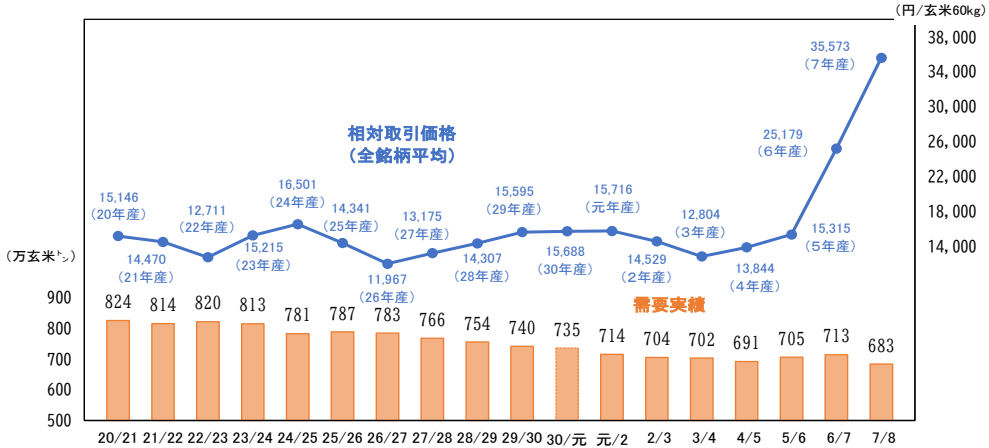
【6月末民間在庫量の推移】 (単位:万玄米ト)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
民間在庫量	212	216	181	180	224	220	226	204	199

	30年	R元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
民間在庫量	190	189	200	218	218	197	153	155	243

注1：上記在庫量はうち玄米及びもち玄米の値で、生産段階及び年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
注2：22年以前は、政府備蓄米の運営を回転備蓄方式で実施していたため、政府備蓄米がこの他に主食用米として販売されている。

【最近における米の需要と価格の動向】



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（7年産は8年6月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

【7/8年の需要動向】

- 令和8年6月末民間在庫量(玄米ベース)は、7年産米の生産量が増加(対前年産+68万トン)したことや需要量が減少したこと等により、前年(155万玄米トン)から88万トン高い243万トン(速報値)。
- この結果、7/8年の需要実績(玄米ベース)は、前年(713万トン)から30万トン(4%)少ない683万トン(速報値)。

<令和8／9年の需要量(見通し)>

【1人当たり消費量(精米ベース)の算出】

(需要実績-インバウンド需要量(推計))÷人口=一人当たり消費量(インバウンド需要除く)

- ①直近5年平均値 → 49.9kg/人
- ②直近5年の最大値(令和6/7年) → 50.7kg/人

(参考1)一人当たり消費量(精米)の推移

	需要実績(万ト)		インバウンド 需要 (万精米ト) ②	人口 (千人) ③	1人当たり 消費量 (精米Kg) (①-②)/③
	玄米	精米 ①			(①-②)/③
R3/4	701.5	632.8	0.2	125,502	50.4
R4/5	691.1	622.3	2.4	124,947	49.6
R5/6	704.9	626.2	5.9	124,352	49.9
R6/7	712.7	635.0	7.0	123,802	50.7
R7/8	682.6	606.9	8.2	123,050	48.7
5年平均					49.9

※ インバウンド需要については、実態に即した推計方法への見直しを行い、需要量を更新。
詳細は、P.9「インバウンド需要の増加」を参照。

(参考2)精米歩留りの推移 (単位:%)

3年産	4年産	5年産	6年産	7年産	5年平均
90.3	90.0	88.6	89.2	88.8	89.4

【令和8／9年需要量(見通し)の算出】

一人当たり消費量
(インバウンド 需要除く)

直近5年平均値
49.9kg

×

令和8年人口
(推計値)
122,450
千人

=

令和8/9年需要量
(インバウンド 需要除く)
610.5
万トン

+

令和8/9年
インバウンド 需要量
9.1
万トン

=

令和8/9年需要量
【精米ベース】
619.6
万トン

直近5年平均値の歩
留りで玄米換算

令和8/9年需要量
【玄米ベース】
693.2
万トン

直近5年最大値
50.7kg

×

122,450
千人

=

621.2
万トン

+

9.1
万トン

=

630.3
万トン

直近5年最小値の歩
留りで玄米換算

711.4
万トン

基本指針（案）のポイント②＜今後の見通し等＞

【前回(令和8年3月23日)】

【令和7/8年及び令和8/9年の主食用米等の需給見通し】

		万玄米トン	万精米トン	
令和7／8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155	138
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747	663
	うち生産者ふるい目幅以上	C	718	
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29	
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925	823
	令和7/8年主食用米等需要量	G	691～704	614～626
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	221～234	197～208

作付意向調査(令和8年1月末時点)を踏まえた見通し

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	221～ 234	197～ 208	221～ 234	197～ 208
	令和8年産主食用米等生産量	I	711	630～ 635	719～ 732	637～ 654
	令和8/9年主食用米等供給量計	J= H+I	932～ 945	826～ 844	940～ 966	834～ 863
	令和8/9年主食用米等需要量	K	696～ 711	622～ 630	696～ 711	622～ 630
	令和9年6月末民間在庫量	L= J-K	221～ 249	196～ 222	229～ 271	204～ 241

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入額は21万玄米トン
を予定。これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。
※2 政府備蓄米の放出(全体で約59万玄米トン)に係る買戻し及び
買入額は、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

【今回(令和8年7月28日)】

【令和7/8年の主食用米等の需給実績(速報値)及び令和8/9年の主食用米等の需給見通し】

		万玄米トン		万精米トン	
令和7／8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155	138	
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	747	663	
	うち生産者ふるい目幅以上	C	718		
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、主食用への供給見込量	D	29		
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23	21	
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	925	823	
	令和7/8年主食用米等需要量	G	683	607	
	令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	243	216	

作付意向調査(令和8年6月末時点)を踏まえた見通し

【参考】
・長期計画的な販売支援(32万トン)
・民間備蓄実証事業(5万トン)

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	243	216	243	216
	令和8年産主食用米等生産量 ※1	I	711	630～ 635	732	648～ 654
	令和8/9年主食用米等供給量計	J= H+I	954	846～ 851	974	864～ 870
	令和8/9年主食用米等需要量	K	693～ 711	620～ 630	693～ 711	620～ 630
	令和9年6月末民間在庫量 ※3	L= J-K	242～ 260	215～ 231	263～ 281	234～ 250

※1 事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入契約数量は21万玄米トン。これは、上記の令和8年産主食用米等生産量には含まれていない。
※2 政府備蓄米の売渡し(全体で59万トン)に係る買戻し及び買入額は、供給不足が生じる見込みが低い環境下で行うことが必要であることから、令和8年産米の作柄を含め、今後の需給状況等を見定めた上で、時期・数量を判断。その上で、基本指針第3の1(1)②の備蓄期間が経過している備蓄米(令和2年産米)の販売に向けて準備。
※3 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、基本指針第4の2のSBS方式や枠外の民間輸入(令和7年度:約11万実トン)による輸入米は含まれていない。
※4 上記の需給見通しについては、今後の生産量や需要量の変動の把握に努め、必要に応じて柔軟に見直す。

令和7/8年の主食用米等の需要量の背景

- 7/8年需要量は683万玄米トン。令和8年3月の基本指針の需要量691～704万玄米トンと比べ▲8～▲21万玄米トン。
- 米穀販売事業者による販売数量の減少や民間在庫量の減少の停滞を踏まえると、米の価格が過去に比べて高いなかで、
 - ① 枠外輸入量の増加に伴い、国産米の需要が減少したのではないか。
 - ② 米不足に対する不安感の薄れや手持ち在庫量の増加により、実需・消費者の購買が落ち着いてきたのではないか。

【令和8年3月指針と7月指針(案)における需要量】

● 3月指針(見通し)

令和8年3月指針
令和7/8年需要量見通し 【玄米ベース】
691万ト～704万ト

令和8年3月指針【精米ベース】		
1人当たり消費量 (インバウンド需要除く)	令和7年人口 (7年10月人口(概算値))	令和7/8年 インバウンド需要
49.4Kg～50.3Kg	123,210千人	6.1万ト※

※ 令和7/8年インバウンド需要は、推計方法の見直し前の値。

● 7月指針(実績(速報))

令和8年7月指針(案)
令和7/8年需要量実績 【玄米ベース】
683万ト

令和8年7月指針(案)【精米ベース】		
1人当たり消費量 (インバウンド需要除く)	令和7年人口 (7年10月人口(確定値))	令和7/8年 インバウンド需要
48.7Kg	123,050千人	8.2万ト

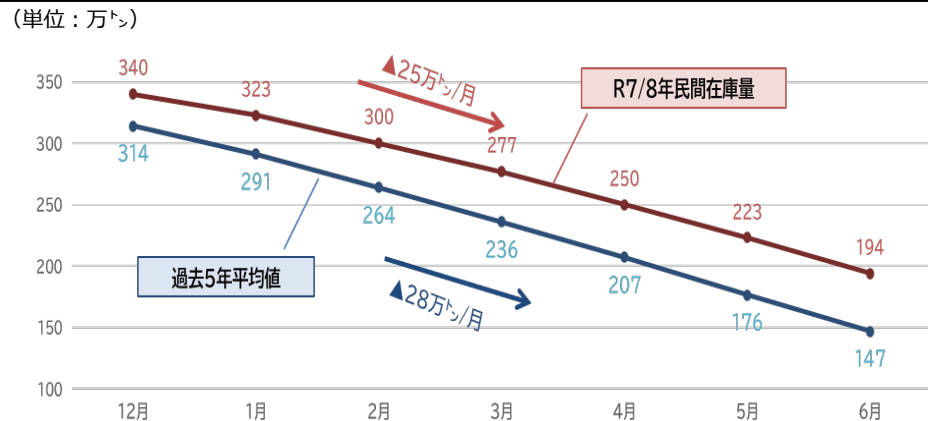
● 需要量の乖離

令和8年3月指針との差
令和7/8年需要量 【玄米ベース】
▲8万ト～▲21万ト

令和8年3月指針との差【精米ベース】		
1人当たり消費量 (インバウンド需要除く)	令和7年人口 (7年10月人口)	令和7/8年 インバウンド需要
▲0.7Kg～▲1.6Kg	▲160千人	+2.1万ト

【7/8年民間在庫量(出荷+販売段階)の推移】

R7/8年の民間在庫量の12月以降の推移については、過去5年平均と比べて減少幅が少ない。



【販売数量の動向(過去5年平均同月比)】

報告対象となる米穀販売事業者による販売数量は、生産量全体の約2割。販売数量計の▲9%は、13万ト程度の減少に相当。

	7年						8年						7年7月 ～8年6月計
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
小売事業者向け	97%	86%	89%	95%	89%	87%	85%	93%	91%	82%	85%	92%	89%
中食・外食事業者等向け	98%	97%	97%	97%	94%	90%	95%	95%	93%	90%	90%	95%	94%
販売数量計	98%	91%	92%	96%	91%	88%	90%	94%	92%	85%	87%	93%	91%

注1 報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約150万ト(令和7年産主食用米等の生産量747万トの約2割))である。

注2 数値は、R2年7月からR6年6月までの5年平均との比較であるため、毎月公表の販売数量の動向(前年同月との比較)とは値が異なる。

【民間貿易(枠外輸入)】

国内流通は通関後、一定の期間が生じる。枠外輸入量は前年度差+約10万トン。

(単位: 実ト)

	7年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年	1月	2月	3月	7年4月 ～8年3月計
民間貿易(枠外輸入)		6,838	10,607	20,979	26,397	15,168	6,534	1,475	2,787	3,866		4,918	4,160	2,049	105,778

令和9年産以降の米の需給見通しの検討方向（案）

今後の需給見通し策定にあたっての留意点

- 主食用米だけでなく、加工用米、輸出用米等の多様な用途の需要に応じた生産を推進
- 米全体及び用途別の需給ギャップ（不足・余剰）の早期把握が重要
- 取引関係者の経営判断に資するように、見通しの設定根拠を含めてわかりやすい情報発信が重要

令和9年産以降の米の需給見通しの方向性

- 非主食用米も含めた用途別の需給見通しへの移行

<検討方向>

- ・ 主食用米については、家庭用、業務用（外食、中食）の内訳を示すことが可能か。
また、非主食用米として、加工用（米粉、酒造、食品原料）、輸出用の区分を追加することが可能か。
⇒ 業務用や加工用については、改正食糧法による新たな定期報告（初回：令和9年7月予定）に基づき需要実績等を整理する。
- ・ 供給は、輸入米やふるい下米を含めて市場に出回る米の全体量で捉えることが可能か。

- 適時性、情報量、伝わりやすさ等のバランスに留意

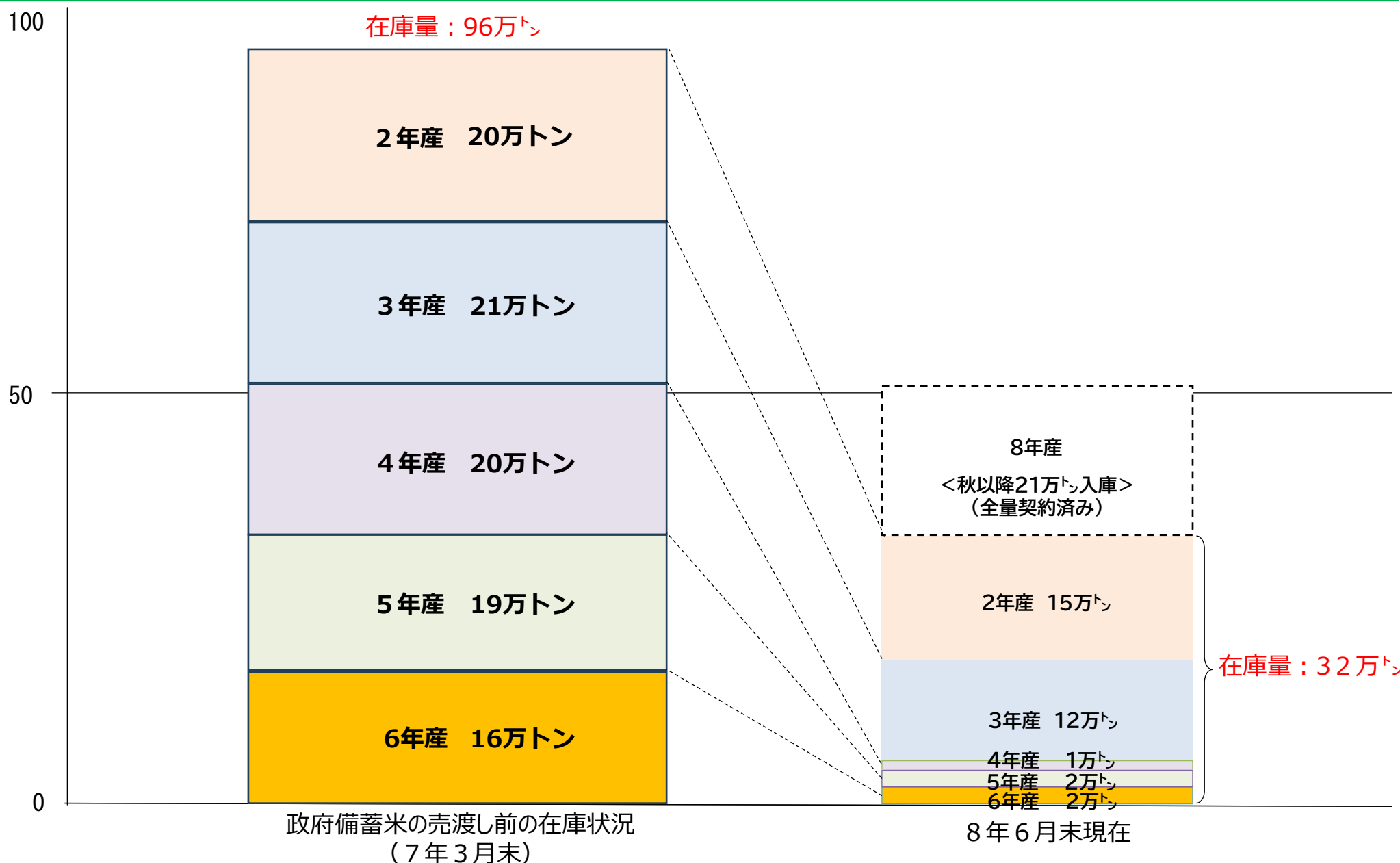
<検討方向>

- ・ 四半期ごと等に各用途のトレンドを踏まえ必要に応じて見通しを期中更新する。
（各用途のトレンドをどのような指標で見ていくか要検討）
- ・ 各用途の需要量や代替効果を考慮した上で、上振れ・ベース・下振れのシナリオ型で提示する。
（シナリオの算出ロジック等について要検討）

検討スケジュール

上記の方向性に沿って詳細を検討のうえ、次回以降の食糧部会で枠組みを議論

政府備蓄米の在庫状況について



※ 買戻し条件付き売渡し31万トン（契約数量ベース）、随意契約による売渡し28万トン（申込確定数量ベース）、加工原材料用への売渡し5万トン（申込申請数量ベース）、計64万トン

政府備蓄米の売渡しに係る買戻し及び買入れについて

- 買戻し条件付き売渡し及び随意契約による売渡しに係る買戻し及び買入れは、流通関係者の予見性の確保及び年産構成の平準化の観点から、対象となる約59万トンを経後の需給状況等を見定めた上で実施。

買入れの方法

＜買戻し条件付き売渡しに係る買戻し＞
随意契約（一般競争入札による政府備蓄米の買受者の中から、見積合せにより契約相手を決定）

＜随意契約による売渡しに係る買入れ＞
一般競争入札

開始時期

今後の需給状況等を見定めた上で実施

参加資格者

＜買戻し条件付き売渡しに係る買戻し＞
一般競争入札による政府備蓄米の買受者

＜随意契約による売渡しに係る買入れ＞
国内産米穀の買入契約に係る一般競争入札に参加する者に必要な資格を有する者

買入価格・落札者の決定

＜買戻し条件付き売渡しに係る買戻し＞
見積合せにより契約相手を決定

＜随意契約による売渡しに係る買入れ＞
予算決算及び会計令に基づき、取引の実例価格、需給の状況、履行の難易、数量の多寡、履行期間の長短等を考慮して適正に予定価格を定め、低価の入札者から落札者を決定

対象米穀・数量

対象米穀 国内産米穀（水稻うるち玄米（1～3等））

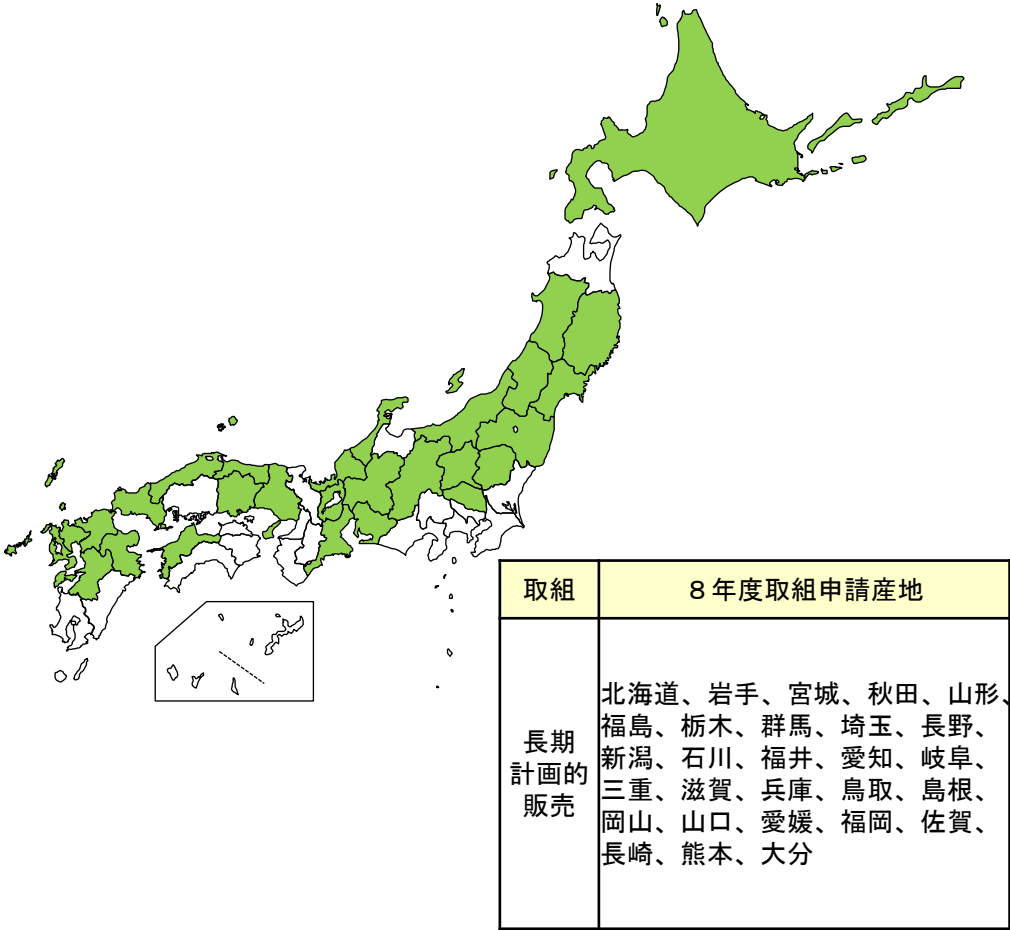
対象数量・年産 全体で約59万トン

※年産は実施時期による

米穀周年供給・需要拡大支援事業の令和8年度申請状況について

- 長期計画的販売：32万トン（28道県）の申請【速報値】
- 民間備蓄実証：公募数量5万トンに対して6.1万トンの申請【速報値】
- 長期計画的販売事業の活用により、加工用米等の多様な米のニーズを満たすための取組等を推進

長期計画的販売に申請している産地



民間備蓄実証の申請状況

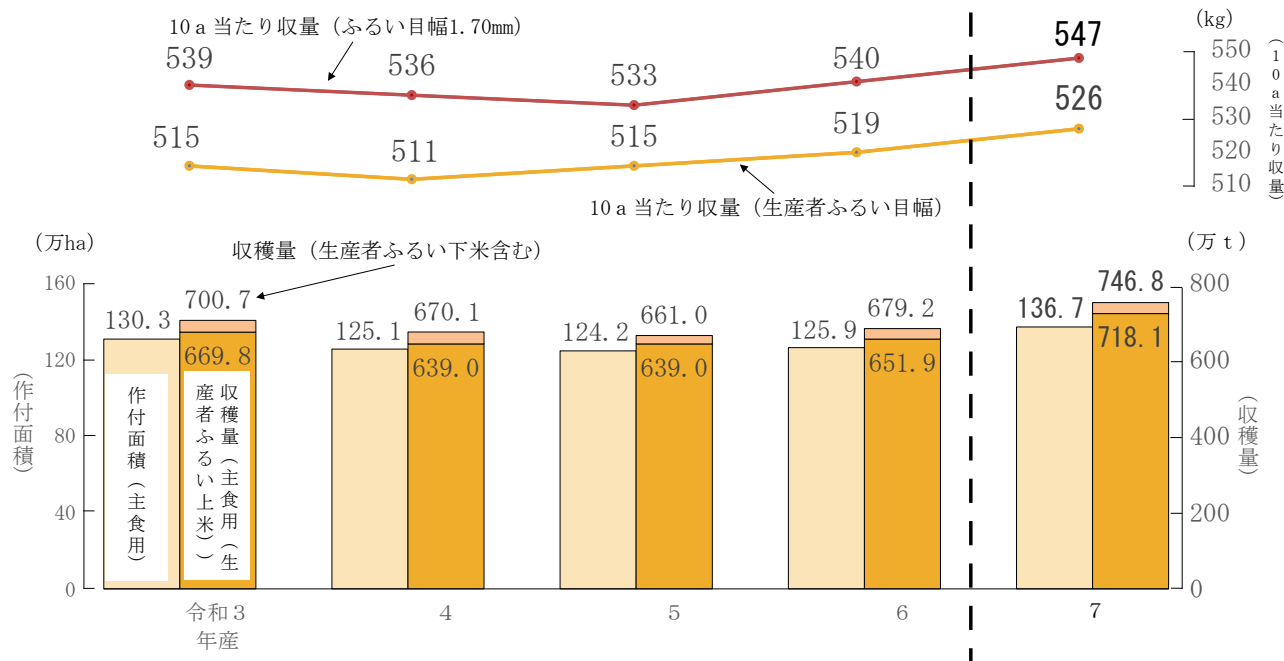
業態	事業者数	公募数量	申請数量
集荷業者	2	3.0万トン	3.0万トン
卸売業者	7	1.5万トン	2.6万トン
需要者との コンソーシアム	2	0.5万トン	0.5万トン

参考資料

令和7年産主食用米の収穫量

- 令和7年産の水稲の生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）ベースの収穫量（主食用）は718.1万トンで、前年産に比べ66.2万トン増加した。これは、
 - ① 作付面積（主食用）が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加となったことに加え、
 - ② 全国の10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、526kgで、前年産に比べ7kg増加したためである。
- 令和7年産の水稲のふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）は746.8万トンで、前年産に比べ67.6万トン増加した。

【水稲の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）】



資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査 令和7年産水陸稲の収穫量」

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 10a 当たり収量（生産者ふるい目幅）及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mm）及び収穫量（生産者ふるい下米含む）は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））①

【北海道・東北・北陸】

単位：千ha

都道府県	主食用米				酒造好適米	備蓄米		戦略作物																			
	主食用米			R8意向		R6実績	R8意向	加工用米														麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績					新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向				
北海道	90.4	90.5	➡	0.5	1.8	2.5	8.1	9.8	7.6	6.9	2.1	3.0	0.1	0.1	2.3	0.8	3.0	3.0	29.7	26.9	14.8	13.4	60.1	57.0			
青森	43.7	43.1	↘	0.2	4.0	4.1	0.3	0.2	5.2	2.4	0.3	0.4	0.0	0.1	4.2	1.5	0.7	0.5	0.5	0.4	4.3	4.0	10.3	6.9			
岩手	46.9	48.1	↗	0.2	0.6	0.6	0.8	0.7	5.3	4.0	0.4	0.3	0.0	0.0	2.9	1.9	2.0	1.7	3.3	3.0	3.7	3.5	13.1	11.2			
宮城	65.3	66.3	↗	0.2	2.2	2.2	1.8	1.3	6.5	4.5	0.8	0.5	0.1	0.1	3.3	2.0	2.3	1.9	2.2	1.9	8.6	8.0	19.1	15.7			
秋田	81.2	78.6	↘	0.7	2.7	2.7	5.6	6.3	2.5	2.2	0.5	0.7	0.2	0.2	0.8	0.4	1.0	0.9	0.1	0.1	7.3	6.6	15.5	15.1			
山形	57.1	55.1	↘	0.6	3.4	3.4	4.7	4.4	4.8	4.1	0.5	0.5	0.1	0.0	3.1	2.5	1.2	1.1	0.1	0.1	4.0	3.8	13.7	12.5			
福島	67.0	62.6	↘	0.4	5.6	6.3	0.9	0.3	2.4	1.6	0.1	0.3	0.0	0.0	1.4	0.6	0.9	0.7	0.4	0.4	0.8	0.7	4.5	2.9			
新潟	108.6	104.8	↘	1.7	4.7	4.8	6.6	7.2	4.2	3.1	1.5	1.1	0.7	0.8	1.3	0.7	0.6	0.6	0.2	0.2	3.3	2.8	14.4	13.3			
富山	33.7	33.4	➡	0.7	1.8	1.5	1.3	1.4	2.6	2.4	0.4	0.4	0.3	0.3	1.5	1.2	0.5	0.5	2.9	2.4	3.6	3.2	10.4	9.4			
石川	22.1	21.3	↘	0.2	0.2	1.5	0.6	0.5	0.4	0.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	1.1	0.9	0.8	0.7	2.9	2.4			
福井	23.3	23.5	➡	0.5	0.7	0.7	0.8	0.8	1.3	0.9	0.3	0.2	0.1	0.1	0.9	0.5	0.1	0.1	5.0	4.2	0.0	0.0	7.2	5.9			

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

注2：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

注3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

注4：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。

注5：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

注6：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

注7：麦及び大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

注8：戦略作物の8年産作付意向の数値は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））②

【関東・東海】

単位:千ha

都道府県	主食用米				酒造好適米	備蓄米		戦略作物																							
								加工用米		新規需要米		新市場 開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計							
	R7 実績	R8 意向	対前年 実績	R8 意向	R6 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向	R7 実績	R8 意向					
茨城	66.7	68.5	↗	0.1	0.1	0.2	1.1	1.1	5.7	3.8	0.9	1.0	0.1	0.1	4.2	2.3	0.5	0.5	3.6	3.2	0.7	0.6	11.0	8.7							
栃木	58.1	59.3	↗	0.5	1.1	1.1	1.7	1.2	7.2	5.4	0.0	0.1	0.2	1.6	5.0	2.0	2.0	1.7	6.6	5.7	0.4	0.3	15.9	12.7							
群馬	14.7	14.6	→	0.0	-	-	0.2	0.3	0.9	0.7	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.6	0.5	1.4	1.3	0.1	0.1	2.6	2.4							
埼玉	30.6	30.5	→	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.3	1.3	0.0	0.1	0.3	0.5	0.8	0.6	0.1	0.1	2.2	2.3	0.3	0.3	3.8	3.9							
千葉	53.1	54.2	↗	0.0	0.1	0.1	1.5	1.5	3.2	2.0	0.1	0.1	0.0	0.1	2.1	1.0	1.0	0.8	0.4	0.4	0.2	0.2	5.3	4.1							
東京	0.1	0.1	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
神奈川	2.8	2.8	→	-	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0							
山梨	4.6	4.5	↘	0.0	-	-	0.1	0.0	0.1	0.1	-	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.3							
長野	30.0	29.9	→	0.9	0.2	0.2	0.4	0.4	0.6	0.5	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	2.3	2.1	0.6	0.5	3.9	3.5							
岐阜	20.8	21.2	↗	0.2	0.1	0.1	1.0	0.9	2.1	1.7	0.1	0.1	0.1	0.1	1.7	1.2	0.3	0.3	3.6	3.6	0.2	0.2	6.9	6.4							
静岡	14.7	15.1	↗	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	0.3	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.8	0.5							
愛知	25.7	25.5	→	0.1	0.1	0.1	0.5	0.6	1.4	1.4	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	0.9	0.1	0.1	5.6	5.2	0.0	0.0	7.6	7.2							
三重	25.7	25.9	→	0.1	-	-	0.1	0.1	1.3	1.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.9	0.6	0.3	0.3	6.7	6.1	0.1	0.2	8.2	7.4							

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

4：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。

5：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

6：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。

なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

7：麦及び大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

8：戦略作物の8年産作付意向の数値は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））③

【近畿・中国】

單位:千ha

都道府県	主食用米				酒造好適米	備蓄米		戦略作物																
					加工用米			新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計		
	R7実績	R8意向	対前年実績	R8意向	R7実績			R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向
滋賀	29.3	30.3	↗	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	1.1	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.3	0.3	0.3	7.9	7.1	0.6	0.5	10.0	8.6
京都	13.2	13.1	→	0.1	-	-	0.4	0.4	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	1.1	1.0
大阪	4.1	4.0	↘	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
兵庫	33.6	34.1	↗	5.4	-	-	0.6	0.6	1.4	1.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.9	0.8	1.8	1.6	1.4	1.3	5.1	4.7
奈良	7.8	7.5	↘	0.1	-	-	0.0	0.0	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2
和歌山	5.6	5.6	→	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鳥取	12.0	12.1	→	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.9	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.4	0.4	0.1	0.1	0.5	0.4	1.4	1.2
島根	16.1	16.2	→	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	1.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	0.7	0.6	0.2	0.2	0.4	0.4	1.9	1.6
岡山	28.1	28.2	→	1.3	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0	0.7	0.2	0.1	0.0	0.0	0.3	0.2	0.5	0.4	0.9	0.7	0.7	0.6	2.7	2.2
広島	20.2	20.4	↗	0.8	0.0	0.0	0.2	0.2	0.9	0.7	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.6	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2	1.5	1.4
山口	16.3	16.6	↗	0.5	-	-	0.8	0.8	1.1	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.4	0.4	0.4	0.7	0.8	0.6	0.5	3.3	2.9

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↑：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↓：減少傾向」（1%超減少）で分類。

4：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。

5：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積

6：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。

なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。

7：麦及び大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

8：戦略作物の8年産作付意向の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第3回中間的取組状況（令和8年6月末時点））④

【四国・九州・沖縄】

単位:千ha

都道府県	主食用米				酒造好適米		備蓄米		戦略作物																									
				R8意向			R6実績	R8意向	加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計									
	R7実績	R8意向	対前年実績						R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向
徳島	10.3	10.3	→	0.1			0.1	0.1	0.0	0.0	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3								
香川	10.1	10.1	→	0.0			-	-	0.0	0.1	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.3	1.1	1.1	0.0	0.0	1.6	1.6								
愛媛	12.7	12.9	↗	0.0			-	-	0.0	0.0	0.4	0.3	-	-	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.3	0.2	1.1	0.9								
高知	10.5	10.7	↗	0.1			0.0	0.0	0.1	0.1	0.8	0.6	-	-	0.0	0.0	0.5	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7								
福岡	34.5	35.2	↗	0.4			0.0	0.0	0.2	0.2	3.1	2.7	0.0	-	0.2	0.3	0.9	0.6	2.0	1.8	1.2	0.9	6.7	6.2	11.2	9.9								
佐賀	23.7	24.5	↗	0.1			-	0.1	0.3	0.3	2.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	1.8	1.5	0.2	0.2	6.3	5.7	9.0	8.0								
長崎	9.5	9.5	→	0.0			-	-	0.0	0.0	1.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.4	1.3	0.1	0.1	0.2	0.1	1.8	1.6								
熊本	31.9	33.1	↗	0.1			-	0.2	0.3	0.2	8.9	7.6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.6	0.4	8.2	7.1	0.6	0.6	1.7	1.5	11.6	10.0								
大分	18.9	19.2	↗	0.0			0.0	0.0	0.1	0.1	3.3	3.0	0.0	0.0	0.1	0.2	1.0	0.7	2.3	2.0	0.6	0.6	0.8	0.7	4.9	4.3								
宮崎	13.5	14.3	↗	0.0			-	-	1.5	1.7	7.6	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	6.8	6.2	0.0	0.0	0.2	0.2	9.3	8.6								
鹿児島	17.6	18.0	↗	0.0			-	-	0.9	0.9	3.8	3.2	-	-	0.0	0.0	0.3	0.2	3.4	3.0	0.1	0.1	0.2	0.2	5.0	4.4								
沖縄	0.6	0.6	↗	-			-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.1	0.1								

- 注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産作付意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に関き取った面積（麦及び大豆は基幹作の面積）。
- 2：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
- 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
- 4：酒造好適米は、農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に規定する醸造用玄米のうち、新市場開拓用米に該当するものを除く。
- 5：備蓄米の6年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。
- 6：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
なお、新規需要米には、青刈り稲・わら専用稲（飼料作物として用いられるもの）を含む。
- 7：麦及び大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に関き取った面積（基幹作）。
- 8：戦略作物の8年産作付意向の数値は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

出荷（集荷業者）＋販売（卸売業者）段階の民間在庫量の月別の推移（令和8年6月末現在）

- 令和8年6月末現在の全国の民間在庫量は、出荷段階（集荷業者）・販売段階（卸売業者）の計で前年差＋72万玄米トンの194万玄米トンとなっており、出荷段階は前年差＋58万玄米トンの142万玄米トン、販売段階は前年差＋14万玄米トンの51万玄米トンとなっている。
- 販売段階の民間在庫量51万玄米トンは、例年の同時期が30～40万玄米トン程度である中、増加しており、今後の動向を注視。

【民間在庫量の推移(出荷＋販売段階）（速報）】

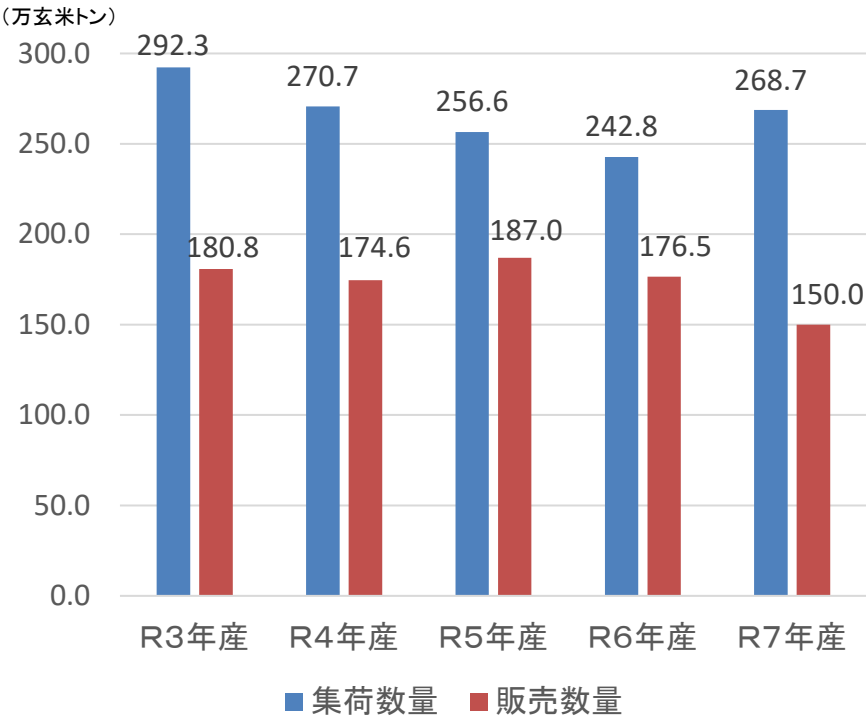
毎月調査ベース													(単位: 万トン(玄米))
	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	基本指針 ベース 6月
22/23年	118	102	212	351	372	363	339	304	238	200	156	118	181
対前年差	+5	+9	+48	+1	▲8	▲8	▲8	▲15	▲29	▲29	▲34	▲36	▲35
23/24年	83	55	134	298	327	320	291	259	224	185	147	113	180
対前年差	▲36	▲47	▲78	▲53	▲46	▲43	▲48	▲46	▲14	▲14	▲9	▲5	▲1
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157	224
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44	+44
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190	220
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33	▲4
26/27年	119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168	226
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21	+6
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147	204
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21	▲22
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141	199
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7	▲4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134	190
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6	▲9
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131	189
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3	▲2
元/2年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154	200
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+13	+7	+6	+11	+16	+23	+11
2/3年	119	101	190	324	344	342	321	293	265	230	199	173	218
対前年差	+20	+21	+29	+30	+29	+24	+26	+27	+31	+27	+21	+19	+19
3/4年	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172	218
対前年差	+19	+17	+24	+6	+6	+7	+5	+6	+6	+7	+5	▲1	▲1
4/5年	142	122	199	313	330	328	306	280	251	219	186	153	197
対前年差	+4	+4	▲15	▲18	▲21	▲21	▲20	▲19	▲20	▲18	▲19	▲18	▲21
5/6年	123	104	199	289	303	298	274	244	214	180	145	115	153
対前年差	▲20	▲18	±0	▲23	▲26	▲31	▲32	▲36	▲37	▲39	▲40	▲38	▲44
6/7年	82	65	149	244	259	253	229	205	180(16)	168(16)	148(20)	121(12)	155(12)
対前年差	▲40	▲39	▲51	▲45	▲44	▲45	▲45	▲39	▲34	▲12	+3	+6	+3
出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135(0)	125(14)	109(16)	84(8)	
対前年差	▲38	▲34	▲49	▲49	▲49	▲49	▲49	▲43	▲36	▲14	▲3	±0	
販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45(0)	43(2)	40(3)	37(4)	
対前年差	▲3	▲5	▲2	+4	+5	+4	+4	+4	+2	+2	+6	+6	
7/8年	92(5)	84(2)	198(1)	307(0)	331(0)	340(0)	323(0)	300(0)	277(0)	250(0)	223(0)	194(0)	243(0)
対前年差	+10	+19	+49	+63	+72	+87	+93	+95	+98	+81	+74	+72	+88
出荷段階	60(3)	51(0)	144(0)	227(0)	250(0)	261(0)	251(-)	234(-)	208(-)	184(-)	165(-)	142(-)	
対前年差	+2	+7	+32	+40	+50	+65	+71	+74	+73	+59	+57	+58	
販売段階	32(3)	33(2)	53(1)	80(0)	81(0)	79(0)	72(0)	67(0)	69(0)	65(0)	57(0)	51(0)	
対前年差	+8	+12	+17	+23	+22	+22	+22	+21	+24	+22	+18	+14	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。
5 令和7年3月以降の（）書きは、売り渡した政府備蓄米の在庫数量（内数）である。

令和7年産米の集荷業者の集荷・販売状況

- 令和7年産米の集荷数量は、令和8年6月末現在で対前年差+25.9万玄米トンの268.7万玄米トン。
- 一方、集荷業者から卸売業者等への販売数量は、6月末現在で対前年差▲26.5万玄米トンの150.0万玄米トン。

【集荷業者の集荷・販売数量の推移6月末時点】(速報)】



資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注: 集荷数量及び販売数量は、年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の集荷業者を対象とした当該年産の出回りから令和8年6月までの累計数量。

【集荷業者の集荷数量の前年差】

(単位: 万玄米トン)

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	90.8	174.9	209.3	236.3	244.0	248.6	251.5	253.6	255.2	256.6	257.3	257.4
6年産	76.7	158.9	191.1	214.2	219.9	223.2	225.0	240.4	241.7	242.8	243.2	243.2
7年産	94.4	185.5	218.4	249.1	256.4	260.9	266.1	266.0	267.1	268.7		
前年差	+17.7	+26.6	+27.3	+34.9	+36.5	+37.7	+41.1	+25.6	+25.4	+25.9		

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	13.9	14.0	14.0	14.0	14.0

【集荷業者の販売数量の前年差】

(単位: 万玄米トン)

	9月末	10月末	11月末	12月末	1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
5年産	8.8	23.3	38.2	56.2	71.2	91.4	113.7	138.1	162.8	187.0	208.2	226.6
6年産	14.3	29.8	45.0	62.0	77.8	95.7	115.0	139.1	159.4	176.5	194.0	207.4
7年産	11.9	28.7	37.5	50.4	63.3	78.6	100.1	118.1	132.2	150.0		
前年差	▲2.4	▲1.1	▲7.5	▲11.6	▲14.5	▲17.1	▲14.9	▲21.0	▲27.2	▲26.5		

	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
うち備蓄米(6年産)	0.3	3.8	8.9	12.4	13.9	14.0

米の販売数量等の推移

- 年間玄米仕入数量5万トン以上の米穀販売事業者における令和7年7月から令和8年6月の累計販売数量は、対前年比92%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比91%、小売事業者向けは対前年比93%）と前年を下回る数量となっている。
- 総務省が公表している家計調査によると、令和8年5月の米の購入数量は、対前年比100%の4.6kg。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	6年7月 ～7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7年7月 ～8年6月計
小売事業者向け	92%	94%	84%	99%	107%	92%	91%	87%	97%	100%	85%	85%	94%	93%
中食・外食事業者等向け	98%	93%	91%	94%	93%	90%	89%	90%	93%	93%	91%	92%	96%	91%
販売数量計	95%	94%	87%	96%	100%	91%	90%	89%	95%	97%	87%	88%	95%	92%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トン以上の販売事業者（年間取扱数量約150万トン（令和7年産主食用米等の生産量747万トンの約2割））である。
2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

		6年7月 ～7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	2月	3月	4月	5月	7年7月 ～8年5月計
米	購入数量	60,060	4,340	5,310	7,980	7,940	5,030	4,720	3,410	4,660	4,560	4,490	4,590	57,030
	前年同期比	104.9%	99.3%	92.7%	125.7%	103.8%	98.4%	90.6%	90.7%	120.7%	104.1%	99.8%	100.0%	102.7%
パン	購入数量	41,731	3,327	3,508	3,444	3,470	3,504	3,623	3,388	3,253	3,756	3,381	3,696	38,350
	前年同期比	97.3%	96.2%	98.9%	103.1%	102.6%	101.0%	101.4%	101.1%	102.4%	100.1%	90.8%	101.0%	99.8%
めん類	購入数量	34,195	3,251	3,039	2,471	2,615	2,793	3,304	2,844	2,610	2,864	2,574	2,997	31,362
	前年同期比	103.1%	109.6%	96.9%	96.6%	101.2%	105.1%	102.3%	105.8%	101.4%	95.7%	91.1%	97.9%	100.3%

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

精米事業者のとう精数量実績調査結果（精米歩留り）について

- 令和7年産の精米歩留り（令和7年7月～8年6月）は、88.8%。
- 令和7年産の精米歩留りを令和2～6年産平均と比較すると0.8%減少しており、主食用米等生産量747万玄米トンから生産される精米量は5万精米トン程度減少（精米するための玄米の必要量は6万玄米トン程度増加）することが見込まれる。

○令和7年産の精米歩留り（今回の調査結果）

(千トン)													
	令和7年7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和8年1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
玄米使用数量 【A】	2	19	54	109	131	170	163	187	211	214	208	227	1,695
製品出来高数量 【B】	2	17	48	97	117	151	145	166	187	190	185	202	1,506
精米歩留り 【B/A】	88.7%	88.4%	88.7%	88.9%	89.0%	88.8%	88.7%	88.8%	88.8%	88.9%	88.9%	88.9%	88.8%

注）とう精数量実績（精米歩留り）は、398の精米事業者の実績を集計した速報値。

（参考）過去（令和2～6年産）の精米歩留り（前回の調査結果）

2年産	3年産	4年産	5年産	6年産	5年平均
89.7%	90.3%	90.0%	88.6%	89.2%	89.6%

注）令和7年6月末時点の令和2～6年産の精米歩留りについて、43事業者（大手卸売業者10社、地方卸売業者23社、米穀店10社）を対象に実施した調査結果。

各年産の生産量・需要量（推計値）等

- 家計調査では、全体の需要量の把握は難しいため、精米事業者の精米とう精数量（398社）から全体の需要量（精米ベース）を推計。
- **その結果、令和4年産と比較して、令和5年産・6年産は増加した一方、7年産は減少。**これに加え、高温障害等により精米歩留まりが悪かったことから、需要量（玄米ベース）は、令和4年産よりも令和5年産、6年産及び7年産は増加。

とう精数量の推移				精米歩留りを踏まえた需要量推計				基本指針の 需要実績
	① 投入量 (万玄米トン)	② 精米歩留り	③=①×② とう精数量 (万精米トン)		④=①/⑦ 比率 (玄米)	⑤=①/0.485 推計需要量 (万玄米トン)	⑥=⑤×② 推計需要量 (万精米トン)	⑦ 需要実績 (万玄米トン)
令和4/5年 (価格高騰前)	335	<7-8月> 90.3 % (3年産)	301	推計	0.485	691	622	691
		<9-6月> 90.0 % (4年産)						
令和5/6年	348	<7-8月> 90.0 % (4年産)	309		-	718	637	705
		<9-6月> 88.6 % (5年産)						
令和6/7年	340 (備蓄米除き :322)	<7-8月> 88.6 % (5年産)	303 (備蓄米除き : 287)		-	701	625	713
		<9-6月> 89.2 % (6年産)						
令和7/8年	339 (備蓄米除き :294)	<7-8月> 89.2 % (6年産)	301 (備蓄米除き : 261)		-	699	621	683
		<9-6月> 88.8 % (7年産)						

令和8年産備蓄米の政府買入入札の結果（令和8年6月10日現在）

- 令和8年産備蓄米の政府買入入札については、令和8年6月9日までに4回実施し、買入予定数量20万7,521トンに対して全量落札となった。

※落札数量は、第1回（令和8年4月14日実施）から第4回（令和8年6月9日実施）最終入札分までの合計数量

産 地	買入予定数量 （優先枠） ①	落札数量 ②	落札率 ②／①	落札残数量 ①－②
北海道	10,001	10,001	100.0%	0
青 森	25,233	25,233	100.0%	0
岩 手	3,482	3,482	100.0%	0
宮 城	11,972	11,972	100.0%	0
秋 田	15,589	15,589	100.0%	0
山 形	20,429	20,429	100.0%	0
福 島	31,606	31,606	100.0%	0
茨 城	666	666	100.0%	0
栃 木	5,879	5,879	100.0%	0
埼 玉	204	204	100.0%	0
千 葉	681	681	100.0%	0
新 潟	25,932	25,932	100.0%	0
富 山	11,880	8,567	72.1%	3,313
石 川	7,841	7,841	100.0%	0
福 井	3,670	3,670	100.0%	0
長 野	1,352	1,352	100.0%	0

産 地	買入予定数量 （優先枠） ①	落札数量 ②	落札率 ②／①	落札残数量 ①－②
岐 阜	483	483	100.0%	0
静 岡	19	0	0.0%	19
愛 知	722	722	100.0%	0
滋 賀	1,159	1,159	100.0%	0
鳥 取	389	389	100.0%	0
島 根	126	126	100.0%	0
岡 山	191	191	100.0%	0
広 島	57	57	100.0%	0
徳 島	301	301	100.0%	0
高 知	10	10	100.0%	0
福 岡	35	35	100.0%	0
大 分	91	91	100.0%	0
優先枠計①	180,000	176,668	98.1%	3,332
一般枠計②	27,521	30,853	112.1%	▲ 3,332
合計(①＋②)	207,521	207,521	100.0%	0

令和 7 年産米の相対取引価格（令和 8 年 6 月の年産平均価格）

					(単位：円／玄米60kg (税込))				
産地品種銘柄		令和7年産 〔出回り～ 8年6月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差 ①－②	産地品種銘柄		令和7年産 〔出回り～ 8年6月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差 ①－②
		①	②	①－②			①	②	①－②
北海道	ななつぼし	35,145	27,035	+ 8,110	静岡	きぬむすめ	28,872	22,393	+ 6,479
北海道	ゆめひりか	37,277	28,034	+ 9,243	静岡	にこまる	40,419	24,397	+ 16,022
北海道	きらら3 9 7	33,691	26,349	+ 7,342	新潟	コシヒカリ（一般）	37,555	25,636	+ 11,919
青森	まっしぐら	33,668	26,297	+ 7,371	新潟	コシヒカリ（魚沼）	41,125	26,517	+ 14,608
青森	はれわたり	36,013	-	-	新潟	コシヒカリ（佐渡）	37,933	25,253	+ 12,680
岩手	ひとめぼれ	36,241	24,101	+ 12,140	新潟	コシヒカリ（岩船）	37,707	25,140	+ 12,567
岩手	銀河のしずく	36,699	24,387	+ 12,312	新潟	こしいぶき	33,964	23,552	+ 10,412
岩手	あきたこまち	36,700	25,413	+ 11,287	富山	コシヒカリ	35,855	26,635	+ 9,220
宮城	ひとめぼれ	36,540	24,315	+ 12,225	富山	てんたかく	34,314	24,725	+ 9,589
宮城	つや姫	34,636	24,276	+ 10,360	富山	富富富	32,685	-	-
宮城	ササニシキ	36,068	24,726	+ 11,342	石川	コシヒカリ	35,772	23,317	+ 12,455
秋田	あきたこまち	36,994	24,806	+ 12,188	石川	ゆめみづほ	33,240	21,948	+ 11,292
秋田	めんこいな	34,672	23,770	+ 10,902	石川	ひやくまん穀	34,060	-	-
秋田	ひとめぼれ	33,838	22,285	+ 11,553	福井	コシヒカリ	33,466	21,494	+ 11,972
山形	はえぬき	34,466	25,804	+ 8,662	福井	ハナエチゼン	32,898	21,166	+ 11,732
山形	つや姫	38,904	28,137	+ 10,767	福井	あきさかり	32,460	21,213	+ 11,247
山形	雪若丸	35,019	26,676	+ 8,343	岐阜	ハツシモ	36,909	25,448	+ 11,461
福島	コシヒカリ（中通り）	35,293	27,013	+ 8,280	岐阜	コシヒカリ	37,902	25,604	+ 12,298
福島	コシヒカリ（会津）	36,644	26,437	+ 10,207	岐阜	ほしじるし	34,222	24,165	+ 10,057
福島	コシヒカリ（浜通り）	35,621	26,069	+ 9,552	愛知	あいちのかおり	32,081	24,203	+ 7,878
福島	天のつぶ	33,409	24,772	+ 8,637	愛知	コシヒカリ	-	-	-
福島	ひとめぼれ	35,173	26,343	+ 8,830	愛知	大地の風	-	-	-
茨城	コシヒカリ	36,890	28,223	+ 8,667	三重	コシヒカリ（一般）	38,813	23,303	+ 15,510
茨城	あきたこまち	35,446	26,462	+ 8,984	三重	コシヒカリ（伊賀）	39,574	23,672	+ 15,902
茨城	にじのきらめき	33,776	26,785	+ 6,991	三重	キヌヒカリ	36,359	22,429	+ 13,930
栃木	コシヒカリ	36,406	25,295	+ 11,111	滋賀	コシヒカリ	34,616	23,771	+ 10,845
栃木	とちぎの星	33,562	24,927	+ 8,635	滋賀	みずかがみ	34,861	23,782	+ 11,079
栃木	あさひの夢	33,420	24,600	+ 8,820	滋賀	キヌヒカリ	33,573	24,177	+ 9,396
群馬	あさひの夢	33,302	27,033	+ 6,269	京都	コシヒカリ	36,043	22,946	+ 13,097
群馬	にじのきらめき	29,125	-	-	京都	キヌヒカリ	33,360	20,348	+ 13,012
埼玉	彩のきずな	33,529	23,846	+ 9,683	京都	ヒノヒカリ	34,512	22,074	+ 12,438
埼玉	彩のかがやき	33,582	26,145	+ 7,437	兵庫	コシヒカリ	37,661	23,954	+ 13,707
埼玉	コシヒカリ	35,464	24,746	+ 10,718	兵庫	ヒノヒカリ	33,146	23,327	+ 9,819
千葉	コシヒカリ	36,088	24,169	+ 11,919	兵庫	キヌヒカリ	33,804	22,613	+ 11,191
千葉	ふさこがね	33,611	23,591	+ 10,020	奈良	ヒノヒカリ	35,652	21,684	+ 13,968
千葉	ふさおとめ	33,246	23,384	+ 9,862	鳥取	きぬむすめ	34,348	24,575	+ 9,773
山梨	コシヒカリ	36,084	19,758	+ 16,326	鳥取	コシヒカリ	34,728	23,519	+ 11,209
長野	コシヒカリ	35,425	23,438	+ 11,987	鳥取	ひとめぼれ	34,274	23,777	+ 10,497
長野	あきたこまち	35,046	23,015	+ 12,031	島根	きぬむすめ	33,582	19,943	+ 13,639
静岡	コシヒカリ	34,988	23,512	+ 11,476	島根	コシヒカリ	35,423	20,761	+ 14,662

産地品種銘柄		令和7年産 〔出回り～ 8年6月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差 ①－②
		①	②	①－②
島根	つや姫	33,897	20,464	+ 13,433
岡山	アケボノ	35,204	25,558	+ 9,646
岡山	きぬむすめ	35,571	25,351	+ 10,220
岡山	コシヒカリ	36,271	25,341	+ 10,930
広島	コシヒカリ	34,961	22,696	+ 12,265
広島	あきさかり	33,949	21,511	+ 12,438
広島	あきろまん	34,657	22,305	+ 12,352
山口	コシヒカリ	34,391	22,575	+ 11,816
山口	ひとめぼれ	34,021	22,173	+ 11,848
山口	きぬむすめ	33,582	22,245	+ 11,337
徳島	コシヒカリ	32,235	23,568	+ 8,667
徳島	あきさかり	31,199	22,633	+ 8,566
香川	ヒノヒカリ	34,194	22,552	+ 11,642
香川	コシヒカリ	34,427	22,515	+ 11,912
香川	あきさかり	34,074	22,127	+ 11,947
愛媛	コシヒカリ	36,964	21,469	+ 15,495
愛媛	ひめの凜	-	-	-
愛媛	ヒノヒカリ	36,445	23,901	+ 12,544
高知	コシヒカリ	35,299	22,339	+ 12,960
高知	ヒノヒカリ	34,327	21,367	+ 12,960
福岡	夢つくし	33,394	24,163	+ 9,231
福岡	ヒノヒカリ	32,983	24,616	+ 8,367
福岡	元気つくし	33,450	25,241	+ 8,209
佐賀	さがびより	36,482	22,228	+ 14,254
佐賀	夢しずく	35,727	21,691	+ 14,036
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-
長崎	にこまる	34,723	24,307	+ 10,416
長崎	なつほのか	34,659	24,089	+ 10,570
長崎	ヒノヒカリ	34,504	23,743	+ 10,761
熊本	ヒノヒカリ	35,717	25,821	+ 9,896
熊本	森のくまさん	-	23,519	-
熊本	コシヒカリ	35,421	24,406	+ 11,015
大分	ヒノヒカリ	34,815	24,265	+ 10,550
大分	なつほのか	34,905	24,358	+ 10,547
大分	ひとめぼれ	35,058	24,246	+ 10,812
宮崎	コシヒカリ	36,508	22,600	+ 13,908
宮崎	ヒノヒカリ	36,275	27,076	+ 9,199
鹿児島	ヒノヒカリ	36,658	29,258	+ 7,400
鹿児島	あきほなみ	37,073	32,303	+ 4,770
鹿児島	コシヒカリ	31,679	21,140	+ 10,539
全銘柄平均価格		35,573	25,179	+ 10,394

注 1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格（令和 7 年産は出回りから 8 年 6 月までの速報値）であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者（年間の販売数量 5,000 トン以上等）。

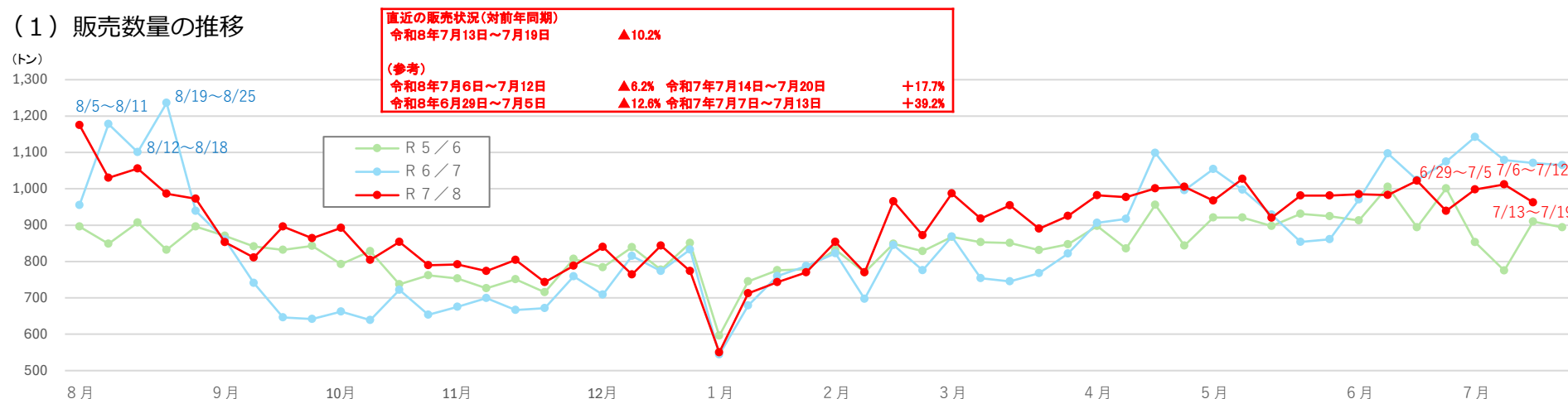
注 2：運賃、包装代、消費税相当額を含む 1 等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は 8%、運賃等は 10% で算定している。

注 3：「－」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が 100 トン未満であり、公表を行っていないもの。

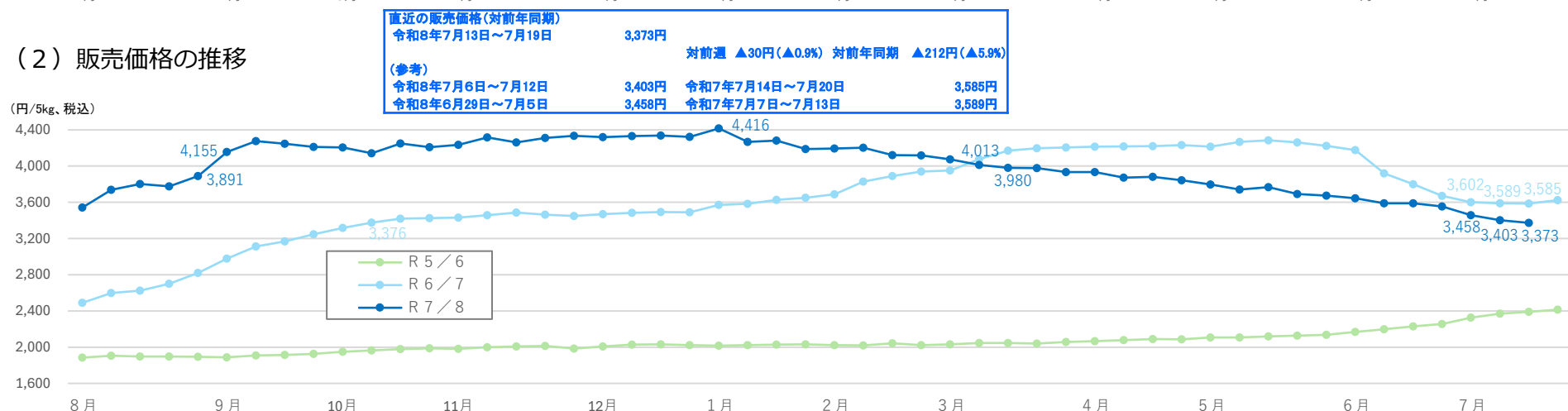
スーパーでの販売数量・価格の推移（POSデータに基づき作成、全国・週次）

- 令和8年7月13日の週の平均価格は、3,373円/5kg（前週比▲30円）。
- 平均価格については、令和7年6月以降、随意契約による政府備蓄米の流通により低下した後、新米の出回り等を背景に上昇。9月以降は4,000円/5kgを上回る水準で推移したが、令和8年1月以降下落基調に転じ、92週ぶりに3,400円を下回った。
- 販売数量については、令和7年6月以降、随意契約による政府備蓄米の流通時期に増加、その後は平年並みに推移し、令和8年2月以降の価格下落局面で、増加基調。

（1）販売数量の推移



（2）販売価格の推移



資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
 注1: (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。
 注2: 週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。
 注3: 『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。
 注4: ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。